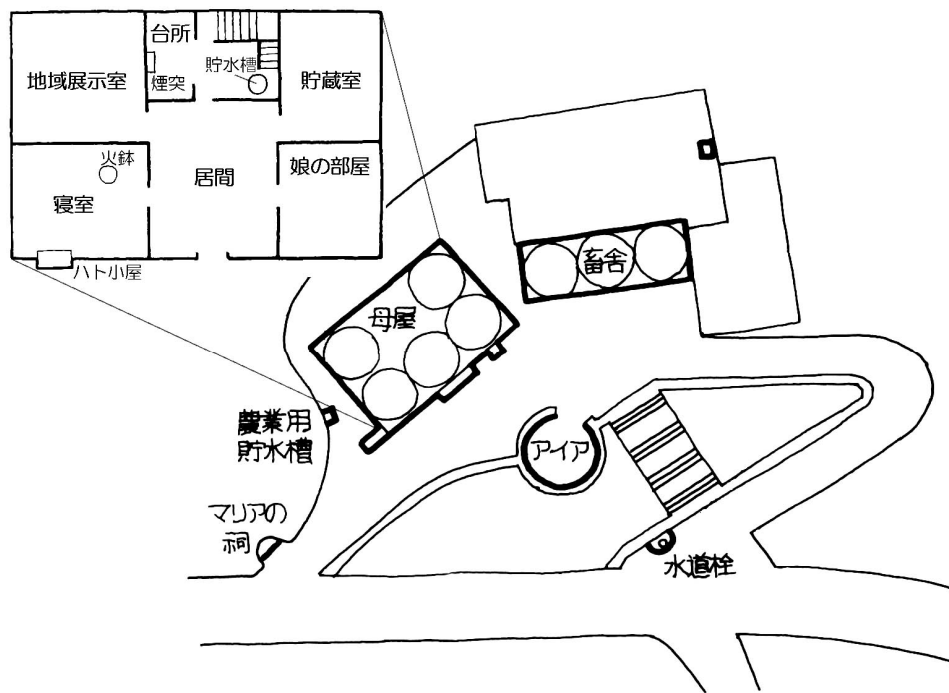


イタリア アルベロベッコの家

イタリア半島南部、プーリア州アルベロベッコ郊外の農家をモデルに母屋、畜舎などを復元し、地中海性気候の風土のもと、ウシを飼いながらオリーブなどの果樹を育てる農家の暮らしを再現しています。



【純粋な石造りの家】

アルベロベッコの伝統的な家屋は、とんがり帽子の屋根を持つことが特徴です。屋根は平たい石を積み上げてつくり、このような屋根をいくつか持つ家屋をトゥルツリと呼びます。トゥルツリは、床、壁、天井、屋根すべてを石で造ります。材料は、アルベロベッコ近郊で採れる石灰岩です。

歴史と住まい：脱税が生んだ世界遺産

【地名の由来】

“アルペロベッコ”という舌をかみそうな名前は、「美しい木」という意味です。現在はゆるやかな丘陵地帯にオリーブやブドウ、アーモンドなどの畑がひろがっていますが、かつては櫟の森であったため「美しい樹木のある森」と呼ばれていました。

【アルペロベッコ集落のはじまり】

そんな美しい森を開墾し畑をひろげ、今のアルペロベッコに集落ができたのは、500年ほど昔のことです。



【王さまと領主】

この頃、ここはある王さまの領土で、王さまに任命された領主が支配しており、王さまは、新しい住民や新築の家を報告して税金を納めろと領主に命令していました。家の軒数で税金の金額を決めていたのです。

【脱税】

悪いことを考える人は古今東西どこにでもいるようで、このアルペロベッコの領主は、王さまの命令に背き税金を逃れる方策を思いつきました。“家の数で税金が決まるのなら、家の数を減らせばいい、家をいつでも壊せるように造ればいい。”何とも乱暴な思いつきで、農民たちはトゥルッリを造らされ、住まわされたのです。

【世界遺産】

セメントなどを使わずに単に石を積み上げただけ（空積み）の家ならば、王さまの役人が不意に視察にきても、すぐに屋根を壊してやり過ごすことができ、造り直すことも簡単でした。簡単とはいっても住民にとっては大変な苦役でした。しかし、18世紀末まで続いた歴代領主の脱税行為のもと、トゥルッリ造りの技術は進歩しました。

トゥルッリの街アルペロベッコが生まれ、発展し、今日では人類共通の文化としてユネスコの世界遺産にも指定されています。